

# 進化経済学会

ニューズレター vol.22

July 2007

進化経済学会事務局

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-4-19

国際文献印刷社内

T:03-5389-6493 E:evoeco-post@bunken.co.jp



\*\*\*\*\*記事\*\*\*\*\*

第11回進化経済学会・京都大会を終えて

第11回会員総会記録・理事会報告

2006年度下半期・部会活動報告

Call for Papers 第12回進化経済学会報告募集

サマースクール・オータムカンファレンスのお知らせ

学会員からのお知らせ

学会員名簿異動

追悼・木村誠志会員

編集後記

\*\*\*\*\*

## 進化経済学会第 11 回大会概要報告

第 11 回進化経済学会大会運営委員会事務局長  
宇仁宏幸 (京都大学)

第 11 回大会は「組織・制度の進化——新しい 10 年に向けて」を統一テーマとして京都大学百年時計台記念館国際交流ホールで、2007 年 3 月 24 日 (土) と 25 日 (日) に開催された。非会員を含めて約 200 名の参加があった。進化経済学会が設立されてから 10 年が経過し、進化経済学研究の新たな展望を切り開きたいというのがテーマに込めた運営委員会の思いであった。この趣旨に沿った企画セッションもいくつか設定された。進化経済学の次なる挑戦課題を提起するセッションでは、限定合理性をキーワードに、実験によって経済主体の意志決定に関するデータを広く収集し、シミュレーションでその妥当性を検討したうえで、制度分析を進めていくことが提起された。また、青木昌彦氏、U. Pagano 氏、G. Hodgson 氏の招待講演も、進化経済学の進むべき方向を示唆する意欲的な内容であった。特に青木昌彦氏の制度に関する論考は若手・中堅の研究者の思考を大いに刺激するものだったようで、彼らが招待講演終了後も青木氏とディスカッションをする姿も見られた。

本大会の運営に当たり、次のような新しい試みを行った。第 1 に、『進化経済学論集第 11 集』の印刷冊子は作成せず、CD-ROM だけを作成し、この CD-ROM を、大会の 1 カ月以上前に全会員に送付した。前回までの大会で配布された冊子体をみればわかるように、1 報告当たり 10 ページに制限したとしても、かなり分厚い冊子となり、資源と経費の無駄が多いというのが、冊子作成廃止の主な理由である。報告を聞く側にはやや不便はあったもの、CD-ROM 化によって 1 報告当たり 20 ページの論文の掲載が可能となり、報告者の側にはメリットの方が大きいと考えられる。原稿の締切が例年より早まり、正月明けになったが、大部分の報告者の方々には締切を守っていただいた。また、『進化経済学論集』全体の統一性や読みやすさを高めるために、弘岡正明会員の論文を模範様式として、これに準拠した原稿作成を推奨した。CD-ROM 作成のノウハウは、北海道大学の吉地望会員から伝授していただいた。

第 2 の新しい試みは、一般セッションにおいてコメンテーターを設定しなかったことである。



これに関しては運営委員会内でも反対意見もあったが、約 1 カ月以上前にフルペーパーが全会員に送付されるので、コメンテーターなしでも討論は活発に行われるだろうと考えて、実施に踏み切った。すべてのセッションをみたわけではないが、わたしがみた範囲、様子を聞いた範囲では、討論は例年と同様に活発に行われていたという印象をもっている。ちなみに、セッションの時間は例年より長めに設定し、1 報告当たり報告 20 分、討論 15 分とした。

反省すべき点もいくつかある。第 1 は、会場内の部屋数の制約 (7 室のみ) があり、会場内に休憩室を設定できなかったことである。

すぐ近くにある大学のカフェをあてにしていたが、かなり混雑していたようで参加者の皆様にはご不便をおかけした。また、懇親会でも、事前参加申し込みは約 70 名であったが、当日の飛び入り参加が約 20 名もあり、最初の料理があつと言う間になくなるというハプニングもあった。これも懇親会参加者の皆様にはご迷惑をおかけする結果となった。

また、ポスターセッションも、ポスター設置場所、ポスター報告専用の時間をどのように捻出するかが課題として残った。

このほか、運営面でいくつかの不便があったが、参加者と報告者の皆様には、大会のスムーズな進行に向けて、いろいろとご協力をしていただいた。記して感謝したい。また、意欲的な企画セッションを準備していただいた方々、司会を快く引き受けていただいた方々、遠く海外からご参加いただいた方々、会場係として朝から夜まで献身的に働いていただいた大学院生、学生諸君に、とくに御礼を申し上げたい。

\*\*\* 第IV期第3回 理事会 報告 \*\*\*

1. 第IV期第3回理事会：2007年3月24日（土曜）12時から、京都大学吉田キャンパス時計台記念館内第III会議室で開催された。出席者は会長、副会長、2監査委員、23理事、欠席者は7理事（うち議長委任4）。

2. はじめに会員状況が以下のように報告された：年度末退会者が7名、前9月理事会での入会資格認定者が7名あり、今理事会での入会資格審査者が21名（うち院生会員14名）ある。除籍ののち復会した会員と休会を終えて復会した会員が各1名いる。退会者数を差し引き、入会申込者を全員入会させると個人会員は510名（うち院生会員100名）となる。なお、これは休会者5名（うち院生会員2名）を含む数字である。ほかに賛助会員1団体（2アドレス）と招待会員2名がいるので、総計513会員である。しかし、今年度末に4年間会費滞納となる会員が15名、3年間会費滞納となる可能性のある会員が28名いる。前者については、年度末の納入状況をみて会則7条により会員資格を停止したい。また、後者については、慎重を期するために会員籍を残し、再度督促をおこないたい。理事会はこの報告を承認した。

[年度末退会者] 合原一幸、黄完晟、北野正一、寺西重郎、辻正次、中村守、平井一人。

[復会者] 瀧澤弘和（会員籍復活）、中野昌宏（休会期間終了）。

3. 入会申込者21名について、その全員が会員となる資格を有することを認定した。

[有資格と認定された入会申込者]  
鄭孝鋒（大阪産業大学・院生）、綿貫真也（ブランド・ヴェンチャーズ（株）・金融証券事業部）、福田順（京都大学経済学研究科・院生）、粟屋祐（京都大学経済学研究科・院生）、大堀耕太郎（早稲田大学理工学研究科・経営システム工学・院生）、吉川満（関西学院大学経済学研究科・院生）、藤原義久（ATR・CIS 応用ネットワーク科学研究室）、高井亨（京都大学経済学

研究科・院生）、菌田龍之介（京都大学経済学研究科・院生）、王剣（シチズン時計株式会社）、舛田佳弘（北海道大学経済学研究科・院生）、千葉学（北海道大学経済学研究科・院生）、坂出健（京都大学経済学研究科）、巖成男（京都大学経済学研究科・院生）、村井浄信（岡山大学社会文化科学研究科）、池田幸生（横浜国立大学国際社会科学研究所・院生）、古山友則（京都大学経済学研究科・院生）、田原慎二（横浜国立大学国際社会科学研究所・院生）、河西勝（北海学園大学経済学部）、三上真寛（北海道大学経済学研究科・院生）、全光日（仁川大学

4. 現在の会計状況が説明され、平成19年度の予算案が示され、審議のうえ承認された。

\*収入：前年度繰越3,100,000円（見込み）に会費4,400,000円を加えて、総計7,500,000円。

\*支出：大会費1,000,000円、英文誌編集刊行費2,500,000円、通信費200,000円、交通費200,000円、事務雑費50,000円、謝金40,000円、送金手数料20,000円、会議費100,000円、印刷費200,000円、業務委託費400,000円、国際交流費100,000円、部会補助費250,000円、経済学会連合35,000円、予備費1,500,000円、小計6,595,000円、次年度繰越905,000円の、総計7,500,000円（5ページ目に予算表あり）。

\*大会費は、今回大会同様、報告集をCD-ROM化することで経費が節減できるとして減額。英文誌刊行費は平成18年度の実額をもとに増額、また広報リーフレット作成費も加えた。部会は、北海道部会の発足を見込んでいる。なお、予算案作成後に国際文献から事務委託契約書の改訂提案がされたので、現在検討中である。したがって、この項目の支出も多少変化がある見込み。

5. 編集委員会から Evolutionary and Institutional Economics Review の編集・刊行状況とその反応、JSTAGE の開発したオンラインでの編集方式の導入を準備していることが説明された。またこれに EIER にかんして、国際的な学術情報の電子媒体での提供者である Ebsco から、同社の有料コンテ

ンツ提供サービスに EIER を加えたいという提案があり、それを受け入れて契約を結んだことが会長から報告された。理由は、ほとんどの大学で導

入されている電子サービスに加わることによってアクセシビリティが高まるだけでなく、少ないながらもアクセスに応じた対価が得られること、また契約内容は他の公開方法と抵触するものではなく、いつでも解約可能であることによる。さらに、現在公開中の J-STAGE から JST のホームページから直接検索できるようにすることの許可が求められていることも報告された。理事会は、いずれも承認した。

6. 塩沢常任理事から『進化経済学ハンドブック』の販売状況が説明され、高価な本にしては売れているが、第2版を実現するためにも販売促進に協力していただきたい旨の発言があった。

7. 第11回大会の進行状況について、参加者160名強で順調に進行中である旨、宇仁大会運営委員会事務局長から説明された。

8. 第12回鹿児島大会の開催について、瀬地山理事から地域と国際化の問題を重点的にとりあげたいとして協力の依頼があった。オータムコンファレンスは9月22日(土曜)、大会は来年3月22-23日(土日)を予定している。

9. 経済学会連合への参加、KOSIME、ICAPE との提携について説明があった。

10. 部会活動の報告は書面でされ、その活動内容は『ニューズレター』で紹介される。

(文責：八木紀一郎)

### \*\*\*第11回会員総会報告\*\*\*

1. 第11回進化経済学会会員総会は、2007年3月25日(日曜)午前10時半から、京都大学吉田キャンパス時計台記念館内国際交流ホールで開催された。

2. 植村博恭会員が議長に選出された。

3. 会長から会員状況が報告され、また昨年9月の第2回理事会で7名、前日の第3回理事会で2

1名の入会申込者が有資格と認定されたことを受け、総会で計28名の入会を承認した。除籍のうち復会した会員と休会から復会した会員が各1名

いる。退会者を差し引くと個人会員は510名(うち院生会員100名。また休会者5名を含む)となり、ほかに賛助会員1団体(2アドレス)と招待会員2名がいるので、総計513会員である。しかし、今年度末に4年間会費滞納となる会員に会則7条を適用せざるをえないので、実数は500名弱と考えてほしい。

4. 平成17年度の決算が示され、監査委員から経理が適正におこなわれているとの監査報告があった。

5. 平成19年度予算案が示され、承認された。詳細は「理事会報告」を参照されたい。

6. 編集委員会から国際誌の編集・刊行状況とその反響、『進化経済学ハンドブック』の普及状況についての説明があった。

7. 第11回大会が順調に進行中である旨、宇仁大会運営委員会事務局長から説明された。

8. 第12回鹿児島大会の開催について、瀬地山理事から地域と国際化の問題を重点的にとりあげたいとして協力の依頼があった。オータムコンファレンスは9月22日(土曜)、大会は来年3月22-23日(土日)を予定している。

9. 経済学会連合への参加、KOSIME、ICAPE、その他国際連携について説明があった。

10. 部会活動の報告は書面でされ、その活動内容は次号『ニューズレター』で紹介される。

(文責：八木紀一郎)

\*\*\*\*\*進化経済学ハンドブック販売状況について\*\*\*\*\*

|  |  |
|--|--|
| <p>昨年発売された進化経済学ハンドブックに関する塩沢会員からの電子メールを転載いたします。会員の皆様、商業的成功にご協力をお願いいたします。</p> <p>-----</p> <p>八木会長からの理事会および総会での概要に補足して『進化経済学ハンドブック』の販売状況について補足説明をさせていただきます。</p> <p>①2007年3月で刊行後6カ月となります。<br/>                 ②初版第1刷 1000部、税込み8400円。<br/>                 ③販売実績 約750部。残部が250部。</p> | <p>出版元の共立出版では、発行後1年以内の重版を期待しています。</p> <p>あと250部です。すでに個人的にお求めいただくなど、ご協力いただいているとおもいますが、大学などの参考書(reference books)として、図書館などに入れていただければ幸いです。何部か入れていただければ、皆さんが授業中に紹介して読んでおくよう指示することも可能になります。</p> <p>『進化経済学ハンドブック』はぜひ数年後には、新しい体制で第2版を編集してもらいたいと考えます。そのためには第1版が商業的にも成功することが第一関門です。ぜひ、ご協力御願ひします。</p> |
|--|--|

進化経済学会 平成19年度予算

(平成19年4月1日 ~ 平成20年3月31日)

| 収入予算          |           | 支出予算       |           |
|---------------|-----------|------------|-----------|
| 概要            | 19年度予算額   | 概要         | 19年度予算額   |
| 前年度繰越         | 3,100,000 | 大会費        | 1,000,000 |
| 会費<br>(内訳)    | 4,400,000 | 英文誌編集刊行費*  | 2,500,000 |
| 正会員<br>(387名) | 3,870,000 | 通信費        | 200,000   |
| 院生会員<br>(96名) | 480,000   | 交通費        | 200,000   |
| 賛助会員<br>(1団体) | 50,000    | 事務雑費       | 50,000    |
|               |           | 謝金         | 40,000    |
|               |           | 送金手数料      | 20,000    |
|               |           | 会議費        | 100,000   |
|               |           | 印刷費        | 200,000   |
|               |           | 事務委託費      | 400,000   |
|               |           | 国際交流費      | 100,000   |
|               |           | 部会補助費      | 250,000   |
|               |           | 経済学会連合     | 35,000    |
|               |           | 予備費        | 1,500,000 |
|               |           | 小計         | 6,595,000 |
|               |           | 平成20年度への繰越 | 905,000   |
| 総計            | 7,500,000 | 総計         | 7,500,000 |

\*英文誌編集刊行費内訳

|            |        |              |      |
|------------|--------|--------------|------|
| 直接出版費      | 180万円  | 郵送費          | 16万円 |
| 欧文校閲費      | 33.6万円 | 広報用リーフレット作成費 | 20万円 |
| 海外レフェリー郵送費 | 0.4万円  |              |      |

2006年度非線形問題研究会後期報告

進化経済学会非線形問題研究会の2006年度研究会後期は下記の活動いたしましたのでご報告申し上げます。活動は電子メイリングリスト [evoeco@chuo-u.ac.jp](mailto:evoeco@chuo-u.ac.jp) のほかに、有賀のホームページ (<http://c-faculty.chuo-u.ac.jp/~aruka/activities.html>) で案内しています。

---

研究会セミナーの開催

---

進化経済学会非線形問題研究会 2006年度  
No. 3

主催：平成18年度科学研究費補助金（基盤研究(C)）課題番号18510134（研究課題名：異質的相互作用エージェントの認識場と社会・秩序形成；研究代表者 有賀裕二）  
\*青木先生の講演のみ、中央大学企業研究所公開研究会と共催

科研費集会 Reconstructing macroeconomics  
日時 2006年12月1日（金）13:00-18:00  
場所 中央大学後楽園キャンパス3号館14階31401  
アクセス  
[http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/access/access\\_korakuen\\_j.html](http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/access/access_korakuen_j.html)

第一部 13:30-15:30

講師 小山友介氏（東京工業大学総合理工学研究科知能システム科学専攻助手）  
論題 ソフトウェア産業の生産性の学習効果：ノウハウは企業に蓄積されるのか、人材に蓄積されるのか？——ゲーム産業の発売延期率データから

講師 江頭進氏（小樽商科大学商経学部助教授）  
論題 ハイエクの人間観

講師 藤原義久氏（NiCT / ATR CIS 応用ネットワーク科学研究室）  
論題 生産ネットワークと企業の成長・破綻

第二部 16:00-17:30

講師 Enrico Scalas（University del Piemonte, Allessandria 物理学科教授）

論題 Tolstoy's dream and the quest for statistical equilibrium in Economics and the Social Sciences

講師 Masanao Aoki（UCLA 経済学部名誉教授）  
論題 Reconstructing macroeconomics

会議終了後、会議室隣室の31400にて青木先生のご新著公刊をお祝いする懇親会の懇親会を行った。

---

進化経済学会非線形問題研究会 2006年度  
No. 4

中央大学企業研究所公開研究会と共催

日時 2007年3月27日（火）15:00-18:00  
場所 中央大学多摩キャンパス2号館4階会議室4  
アクセス  
[http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/access/access\\_tama\\_j.html](http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/access/access_tama_j.html)

講師 Geoffrey Hodgson（University of Hertfordshire ビジネススクール教授）  
論題 Darwinism and the Evolution of Institutions

講師 Ugo Pagano（University of Siena 経済学部教授）  
論題 Marx after New Institutionalism

【2007年度の予定】

2008年3月13-15日に中央大学にて The Third International Nonlinear Science Conference を開催しますので、ちょうど名前も非線形ですから、この大会に向けて活動したいと思います。この会議は

Society for Chaos Theory in Psychology & Life Sciences' (SCTPLS)

<http://www.societyforchaostheory.org/> です。第2回のURLは

<http://www.societyforchaostheory.org/insc/2006/default.htm> です。

平成18年度科学研究費補助金（基盤研究(C)）課題番号18510134（研究課題名：異質的相互作用エージェントの認識場と社会・秩序形成；研究代表者 有賀裕二）を母体としますが、当該科

研費メンバーは全員、進化経済学会会員です。

ぜひ皆様のご協力をお願いします。

非線形問題研究部会 有賀裕二（文責）

## 2006年度九州部会活動報告

（担当；岡村作成）

- 進化経済学会九州部会研究会（通算第37回）；フィランソロピー研究会と合同開催  
日時；2006年6月10日（土）午後1時半より午後5時半まで  
場所；九州産業大学経済学部小会議室（1号館9階）  
報告者と論題（敬称省略）；  
①吉田正広（愛媛大学）「第二次世界大戦期におけるイングランド教会と社会改革  
——ウィリアム・テンブルの活動を中心に——」  
②松塚俊三（福岡大学）「識字と読書の社会史——最近の研究動向の整理——」  
（担当；岡村）

- 進化経済学会九州部会研究会（通算第38回）  
日時；2006年6月17日（土）正午より午後4時半まで  
場所；九州大学経済学研究院中会議室（経済学部2階）  
報告者と論題（敬称省略；合評会形式）

①池田 毅（阪南大学）「『経済成長と所得分配』（日本経済評論社）をめぐって」  
コメンテーター 西 洋（九州大学・院）

②伊藤宣広（立教大学）「『現代経済学の誕生——ケンブリッジ学派の系譜——』（中公新書）をめぐって」  
コメンテーター 山崎好裕（福岡大学）

（担当；磯谷）

- 進化経済学会九州部会研究会（通算第39回）九州大学大学院経済学研究院・国際学术交流振興基金との共催  
日時；2006年7月28日（金）午後2時より午後5時半まで  
場所；九州大学経済学研究院中会議室（経済学部2階）

報告者と論題（敬称省略）

LECHEVALIER Sebassten (EHSS, Paris)

“Price, Wage and Mark Up: An Analysis of Deflation in Japan”

（担当；磯谷）

○進化経済学会九州部会（通算第40回）；九州産業大学経済学会と共催

日時；2007年1月27日（土）、午後1時半より午後6時まで

場所；九州産業大学経済学部中会議室（1号館9階）

報告者と論題（敬称省略）；

第I報告 13:30-15:00；伊佐勝秀（西南学院大学）

「新規高卒者の就職市場の制度と進化—福岡県下4高校の調査結果から—」

第II報告 15:20-17:50；植村邦彦（関西大学）

「〈土台／上部構造〉論の思想史的意味」

部会総会 18:00-18:20

（担当；黄）

\*なお、2007年4月から、部会事務局を九州大学荒川研究室に変更します。

## 現代日本の経済制度研究部会

### 2006年度後半活動報告

#### 第26回研究会

日時；3月10日 13時～18時

場所 京都大学 経済学部 総合研究棟 1階101演習室

プログラム

1. 報告者：鍋島直樹（名古屋大学）  
論題：「カレツキ経済学の可能性」
2. 報告者：遠山弘徳（静岡大学）  
論題：「文献紹介：ホール・ソスキス『資本主義の多様性』を読む」

文責 平野泰朗

Call for Papers

第12回進化経済学会・鹿児島大会 報告募集

開催日時：2008年3月22日（土）・23日（日）

開催場所：鹿児島国際大学7号館（予定）（鹿児島市下福元町8850）

テーマ：地域ネットワークとイノベーション  
～知識、制度、進化～

今回の大会では、「地域」をテーマに掲げました。「地域」とは、制度、組織、知識などが渾然一体となった実体であり、経済社会制度や産業組織、知識や技術などの生成発展の諸問題が、相互に関連し合い、あるいは重層的な構造を持っています。多くの会員の方々は、それを応用問題と位置付けることでしょうか。

しかし、そもそも進化経済学は、こうした重層的で複雑な現実飛び込んでいく意志をもった学問でした。「現実の一側面」という切り分けを細かくして、理論的追求を行うことも重要です。しかし、自分の研究領域以外と関わりが出てくる問題を応用問題としてわきに置き、答えを求められてもいささかアドホックな説明で取り繕うのでは、進化経済学の初期の意気込みを喪失してしまうでしょう。

1982年に出た現代の進化経済学のバイブルとも言える書物、An Evolutionary Theory of Economic Changeにおいて、NelsonとWinterは十分分節化されていない、直感的とも言える、verbalな説明を appreciated theory と呼んで、その重要性を指摘すると同時に、それを formal theory へ昇華させる努力の大切さを訴えました。私たちは、「地域」という領域を措定して、その中にある諸要素の絡み合いを読み解く枠組みを作り、その方法的基礎の確立を目指すというかたちで、彼らのこの呼びかけに応えたいと思います。

これはある種の総合を目指す方向です。これまで蓄積された進化経済学の個別の知を総合し、豊かな知へと転換してゆく機会になればと思います。もちろんこのことは応募論文のテーマを

束縛するものではありません。個別の領域の深化、原理的な探求は、さらに推し進められなければなりません。例えば、そうした問題意識から、「認知論、知識、意思決定」というテーマを新たに設定しました。「地域」への言及の有無にはこだわりませんので、広範な領域からの多数の応募をお待ちしております。

口頭セッションの区分と名称は、公募受付終了後に確定しますが、応募のご参考までに以下のテーマを挙げます。

- 1-1. 組織とネットワーク (1) 地域、産業集積
  - 1-2. 組織とネットワーク (2) 企業内組織、企業間組織
  - 2-1. 経済動態論 (1) マクロ、社会経済
  - 2-2. 経済動態論 (2) 産業競争
  - 2-3. 経済動態論 (3) 貨幣・金融
  3. 構造変化とイノベーション
  4. 制度と政策
  5. 制度と歴史
  6. 思想／経済学史的アプローチ
  7. 認知論、知識、意思決定
  8. シミュレーション
  9. 進化ゲーム、実験経済学
  10. 人工市場
  11. 自由論題
- 【応募要領】



報告希望者は、(1) 希望するセッション区分番号と区分名、(2) 要旨 (A4 用紙 2 枚程度、キーワードを 3 ないし 5 個付けてください) を、9 月 15 日 (土) までに、第 12 回進化経済学会大会運営委員会事務局長 富澤拓志 (tomizawa@eco.iuk.ac.jp) 宛に E メールでお送り下さい。

採否の決定は 10 月はじめまでに行い通知します。なお現在、非会員であっても学会加入の意思があれば応募を受理いたします。採択された方は、2008 年 1 月 7 日 (月) までに、『進化経済学論集』に掲載する A4 版 20 ページ以内の原稿 (pdf ファイル、または Microsoft Word の doc ファイル) を大会運営委員会事務局長 富澤拓志 (tomizawa@eco.iuk.ac.jp) 宛に、Eメールの添付ファイルでお送り下さい。

(Eメールには、受信した旨を返信いたします。通信後、3 日経過しても返信のない場合には、お手数ですが、再度確認のメールをお送り下さい。

第 12 回進化経済学会大会運営委員会  
委員長：瀬地山敏 (鹿児島国際大学)  
事務局長：富澤拓志 (鹿児島国際大学)  
大会ホームページ：<http://www.iuk.ac.jp/~evoeco/>

(今回の大会では、『進化経済学論集』の冊子版は作成せず、CD-ROM 版での配布のみとします。また、掲載原稿の枚数制限はこれまでは、A4 版 10 ページでしたが、A4 版 20 ページに緩和します。pdf ファイルでの原稿送付を推奨します。Microsoft Word の doc ファイルの原稿については、運営委員会が機械的に pdf ファイルに変換します。

#### 【ポスターセッション】

ポスターセッションを予定しています。詳細は追ってお知らせいたします。

---

## 2007 年度進化経済学会サマースクール開催のお知らせ

進化経済学サマースクールを今年も開きます。普段はなかなか会う機会もない研究者と膝を交えて交流できるチャンスです。大学院生をはじめとする若手の方はもちろんですが、歳を重ねたが研究意欲ではまだまだ若手に負けないという方、もはや若手とは客観的にも主観的にも言えないが、ざっくばらんな議論が好きだという方、どうぞふるってご参加下さい。

今回は、前半と後半の 2 部制とします。第一部では、吉田雅明さん、西部忠さんや江頭さんたちを中心として作成されている進化経済学の教科書に関する意見交換、第二部では「地域」をキーワードとして、参加者全員でショートトーク (1 人 10 分程度) を行います。どういう「地域」であっても構いません。こじつけでも結構

ですので、各自ご自身の研究テーマや問題意識などに絡めて話題を出し合い、みんなで侃々諤々やりましょう。

#### 【プログラム】

第 1 部：進化経済学の教科書を軸とした意見交換  
第 2 部：トークバトル「地域？進化経済学？」

日時：9 月 21 日 (金) 午後 2 時～6 時頃  
場所：鹿児島サンロイヤルホテル 3 階マーガレット (鹿児島市与次郎 1-8-10 TEL 099-253-2020)

(大学院生、ポスドクで参加される方には若干ですが旅費の補助が出ます。)

※夜は鹿児島の旨いものをご紹介します席を設け

## ニューズレター vol.22

る予定です。鹿児島と言えば焼酎と黒豚が有名ですが、それだけではありません。いろいろある隠れた名品をどうぞお楽しみに。

### 【参加お申し込み】

参加ご希望の方は、第12回大会の運営委員会サイト (<http://www.iuk.ac.jp/~evoeco/>) から、または直接下記のアドレスからお申し込み下さい。なお、お申し込みの際には、ショートトークのテーマ(タイトル)とご身分(院生・ポスドクかどうか)をお知らせ下さい。

大会運営委員会サイト :

<http://www.iuk.ac.jp/~evoeco/>

サマースクール申込 :

<http://room409-1.ih.otaru-uc.ac.jp/~evokagoshima/cgi/app2.cgi>

### 【鹿児島サンロイヤルホテルまでの交通案内】

- ・JR九州 鹿児島中央駅より車で約15分
  - ・航空便 鹿児島空港より空港連絡バスで与次郎1丁目(ホテル前)下車68分
- ※空港から会場までと翌日にホテルからオータム・コンファレンス会場までの送迎バスを出せないか検討中です。詳細は追ってメーリングリスト、および大会ホームページにてお知らせいたします。

今回の会場が「鹿児島サンロイヤルホテル」になっていることもあり、お泊まりは鹿児島サンロイヤルホテルが便利です。ホテルのご厚意で、下記の通り特別料金を設定していただきましたのでよろしければご利用下さい。もちろんオータム・コンファレンスのみ参加の方もご利用いただけます。

ただ、鹿児島へは航空運賃と宿泊費がセットになったパック商品が旅行社から出ており、それを利用していただく方が安くなるかもしれません。また、このご案内は宿泊をサンロイヤルホテルに限定するものではありません。

鹿児島サンロイヤルホテル 進化経済学会向け特別宿泊料金(朝食、税サービス料・入湯税を含む)

シングル : 8000円

ツイン/トリプル : 7000円

---

## オータム・コンファレンスのご案内

第12回大会統一テーマである「地域ネットワークとイノベーション ～知識、制度、進化～」を軸として、進化経済学が「地域」の問題をどう扱えるのか、「地域」は進化経済学の研究にとってどのような意味を持つのかについて、多角的に議論したいと考えています。一部交渉中の方も含まれていますが、下記の方々の報告に基づいて議論を行い、学問と実践との関係、地域に関する議論を理論に昇華させる可能性について理解を深めるきっかけとしたいと思います。

【プログラム】(予定)

司会 : 瀬地山 敏氏(鹿児島国際大学)

【サマースクールの宿泊について】

### パネリスト

- ・稲垣京輔氏(横浜市立大学)
  - ・深見 聡氏(鹿児島国際大学)
  - ・西部 忠氏(北海道大学)
  - ・塩沢由典氏(京都大学)\*
- (\*交渉中)

### 稲垣氏略歴

1995年からボローニャ大学経営学大学院へ留学、ボローニャの包装機械メーカーに見られる起業家間ネットワークと創業の連鎖、産業集積との関係について研究を行う。2002年から横浜市立大学。

著書および論文には、『イタリアの起業家ネットワーク—産業集積プロセスとしてのスピ

オフの連鎖ー』白桃書房 2003年、「スピンオフ連鎖と起業者学習」『組織科学』 38-3, pp.41-54 2005年などがある。

深見氏略歴

地域コミュニティの内発的再生と環境共生のまちづくりを中心として、特に九州と東アジアの比較研究や、NPO での教育実践・調査事業に取り組む。NPO 法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会理事長を務めつつ、まちづくり活動を通じた主体の気づきと学習の過程に着目したコミュニティ研究を行っている。

論文として「地域コミュニティの再生と「気づき」の視点ーキーワードの整理とアプローチの手法に関する考察ー」地域政策科学研究, No.3, pp.67-90, 2006年などがある。

日時:2007年9月22日(土)午後2時~6時(受付開始 午後1時30分)

会場:鹿児島国際大学

(午後6時30分から懇親会を予定しております。)

およびサンロイヤルホテルと大学の間で送迎バスを出せないか検討中です。詳細は追ってメーリングリスト、および大会ホームページにてお知らせいたします。

鹿児島中央駅(西鹿児島駅)から、指宿・枕崎線「喜入・山川または枕崎行」で坂之上駅下車(約20分)、スクールバスで5分

鹿児島空港から鹿児島中央駅までは、空港連絡バスをご利用下さい(直行便で約40分)。

詳細は、鹿児島国際大学ホームページ(<http://www.iuk.ac.jp/>)からアクセスマップをご覧下さい。

【宿泊について】

上記サマースクールのご案内にあります通り、鹿児島サンロイヤルホテルにて学会特別料金が設定されておりますので、よろしければご利用下さい。

---

学会員からのお知らせ

小山会員(東京工業大学)から、日本デジタルゲーム学会の案内が届きましたので、ニューズレターに掲載いたします。進化経済学関連の研究者、学生にも興味深い内容だと思われます。

仮想世界の経済学は進化経済学会員にも興味を持っていただけたと思います。是非ご参加ください。

Webページ

<http://digra2007.digrajapan.org/>

-----  
日本デジタルゲーム学会は、JAPAN 国際コンテンツフェスティバル (<http://www.cofesta.jp/>)

の一環として、9月24日(月・祝)~28日(金)まで開催されます(29日にはエキスカージョンとして、秋葉原散策が予定されております)。基調講演として、仮想世界の経済学の第一人者、エドワード・カストロノヴァ氏(インディアナ大学)の講演が予定されております。

【鹿児島国際大学までのアクセス】

※空港から大学、大学から鹿児島市中心部まで、